

平成22年度 地理Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	地理B	単位数	4	履修学年・区分	3 学年
使用する教科書	高等学校 世界地理B（帝国書院） 標準高等地図（帝国書院）				
副教材等	高等学校 世界地理Bノート（帝国書院）				

2 学習目標

- ・自然と人間生活のかかわりを理解する。
- ・現代世界のグローバル化の動きを捉える。
- ・地理的な見方，考え方を身に付ける。

3 学習方法

- ① 地理の勉強は暗記ではありません。  
 地理の学習では、「なぜそうなるのだろうか」という問題意識を持つことで、興味関心が高まります。次に、その原因を探り、解決に向けての行動を考えていくことが自分自身の探求に繋がるのです。つまり、地理用語だけを暗記しても、地理の学習は難しいということです。
- ② 日々の授業が一番大切です。  
 主体的にノートをとりましょう。教師の説明や余談も含めて、興味を持ったエピソードや理解不十分な点も含めて、自分なりにメモして自分だけのオリジナルノートを作りましょう。
- ③ 自分の考えや疑問をみんなで共有しましょう。  
 分からない点や疑問に思うことは、その時に質問しましょう。あなたの質問が、授業を受けるみんなの新しい知識や理解に繋がります。
- ④ 一家に一冊「地図帳」を置きましょう。  
 常日頃から社会情勢に関心を持ち、テレビのニュースや新聞を見ましょう。その際、分からない地名は地図帳で確認する習慣を身に付けることが大切です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習活動・ねらい	評価のポイント
第1学期	4	1章 自然環境の多様性 1節 世界の地形と人々	・世界の地形の概要と分布について理解する。河川が作る地形や海岸の地形などについて形状を理解するとともに、人間生活との関連を理解する。	・身近な地形の形状・生活との関連の一般的共通性や地域的特殊性について理解し、それらの知識が身に付いたか。
	5	2節 世界の気候と人々 2章 世界の生活と文化 1節 世界の衣食住	・世界には種々の気候が存在することを理解する。その分布・成因・特徴を理解するとともに、人間の生活との関連を理解する。 ・世界各地で衣食住に代表される生活文化が異なることを理解するとともに、共通性と特殊性を生み出す原因について考察する。	・世界各地の気候の特色を理解し、それらが人間生活とどのような関連を持っているかについての知識が身に付いたか。 ・世界各地の衣食住が自然環境と密接に関係していること、世界各地の文化と宗教との関連、またグローバル化が進んだことによって変化している世界各地の生活・文化についての興味・関心をいただき、主体的に学習できたか。
	6	2節 世界の都市と村落 3節 消費・余暇活動の変化	・世界各地の都市・村落の発生・発達・現状を理解し、それによって生じる都市問題の一般的共通性・地域的特殊性について理解し考察する。 ・世界各地の消費・余暇活動の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。	・世界の都市と村落の発生と発達、都市の拡大と変化に伴う様々な都市問題の発生とその解決方法を理解し、それらの知識が身に付いたか。 ・世界各地の消費・余暇活動がどのように異なるか、それらの特色が何に起因しているか、な

	3章 世界の産業 1節 世界の農業	・世界各地の農業の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。農業と自然環境の関連、農業と社会環境との関連を理解する。	・ ぜ近年変化が生じているのかを資料をもとに思考・考察できているか。 ・ 自然環境との関連によって世界の農業にはどのような特性があるのか、世界や日本が抱えている農業問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。
	2節 世界の鉱工業  4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査 7 1節 地域のスケールと調査の視点 2節 市町村規模の地域の調査	・ 世界各地の鉱工業や資源・エネルギーの一般的共通性と地域的特殊性を理解する。鉱工業や資源・エネルギーと社会環境との関連を理解する。 ・ 地域調査の意義と技法について理解する。調査対象とする地域のスケールに応じて地域調査の方法が異なることを理解する。 ・ 市町村規模の地域調査の技法を習得する。対象とする地域と自らの距離に応じて調査方法が異なることを理解する。	・ 社会環境と鉱工業、資源・エネルギーとがどのように関連し影響を与え合っているのか、世界や日本が抱えている環境問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。 ・ 身近な地域の地域調査を実施して、地域の特色を見いだすことに興味・関心をいだき、主体的に学習することができたか。
第 2 学 期	9 3節 国規模の地域調査 1 オーストラリア 2 アメリカ合衆国 3 インド	・ 国規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域であるオーストラリア・アメリカ合衆国・インドの特色について理解する。	・ 興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・ 対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	10 4節 州・大陸規模の地域の調査 1 東南アジア 2 中央アジア・西アジア・北アフリカ 3 ヨーロッパ	・ 州・大陸規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域である東南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・ヨーロッパの特色について理解する。	・ 興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・ 対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	11 5節 近隣諸国の研究 1 中国の研究 2 韓国の研究	・ 国規模の地域調査の技法を利用し、対象地域である中国・韓国・ロシアの国としての特色、近隣諸国としての特色について理解する。	・ 興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・ 対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	12 3 ロシアの研究		
第 3 学 期	5章 現代世界の地理的認識 1節 地図でとらえる現代世界 2節 地域区分でとらえる現代世界 3節 結びつきを強める現代世界	・ 地図が世界の諸事象を表現していることを理解する。事象を地図化することでわかりやすくできることを理解するとともにその技法を習得する。 ・ 世界は事象によって地域区分されることを理解するとともに、地域区分をすることで、世界をより的確に把握できることを理解する。 ・ 国家や国家群による世界の結びつき、交通・通信の発達	・ 地図からそこに表現されている事象を適切に読み取る技法や、事象を最も適切に地図化する技法が身に付いたか。 ・ 地域区分された世界図から事象の特色を読み取る技法や、事象をもとに世界をより適切に理解するために地域区分する技法が身に付いたか。 ・ 現代世界において国家がどのような意味をもっているのか、国家が国家群を形成する理由とそ

		による社会の変化，貿易による国家・地域間の結合を理解するとともに，世界の中で地域は孤立して存在し得ないことを理解する。	の功罪について思考・考察できているか。交通・通信の発達が世界をなぜどのように変化させていったか，その功罪について思考・考察できているか。
2	6章 現代世界の諸課題と解決への地理的アプローチ 1節 人口・食料問題 2節 環境問題	・地球的な課題の一例としての人口・食料問題について理解するとともに，その解決の方策を考察し，提言できるようにする。 ・地球的な課題の一例としての環境問題について理解するとともに，その解決の方策を考察し提言できるようにする。	・人口・食料・環境問題の発生の背景と理由について思考・考察ができたか。 ・発展途上国と先進国における人口・食料・環境問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。
3	3節 民族・領土問題	・地球的な課題の一例としての民族・領土問題について理解するとともに，その解決の方策を考察し，提言できるようにする。	・世界各地における民族・領土問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。

## 5 学習評価

### (1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき，学習内容のまとめりにごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお，学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	主体的にノートをとることができているか。また，作業や話し合いに積極的に参加しているか。
2 思考・判断	地理的見方・考え方を身に付け，世の中の事象について多面的に考えられるか。
3 資料活用の技能・表現	地図や統計データ，分布図等を的確に読み取り，また自分でも作成できるか。
4 知識・理解	基本的な視点を持ち，様々な課題やその関連性について理解を深め，その一連の知識を身に付けているか。

### (2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	—	—	○	出席状況・授業への取り組み状況
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施
提出物	○	—	○	○	課題プリントの取り組み状況
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は，観点の中で特に重視するという意味です。)